

鳥獣被害の減少にむけて

要約

正確な知識の啓発のため、地域の指導的な立場にある市町村担当者への講習を行うとともに集落講習会、現地調査、パンフレット配布等を実施し、鳥獣被害の低減につなげる。

現状(背景)と課題

- 鳥獣被害は防止柵の設置等が効果を上げて直近の4年間は減少しているもののまだまだ面積及び金額ともに多い
- 被害面積 219ha (H26)
- 被害金額 1.26億円 (H26)



目標

- 被害面積の減少
- 被害面積 : 215ha (H27)
- 被害金額の減少
- 被害金額 : 1.2億円 (H27)

活動内容

- 「市町村・地域リーダー」に対して集落ぐるみ鳥獣害対策の進め方やその重要性、具体的な対策等についての研修を実施。
- パンフレットを作成・配布。
- ワイヤーメッシュ柵と電柵を組み合わせた防護柵やテキサスゲートの設置など大規模に防護柵を設置している地域を中心として現地調査、講習会、効果調査及びイノシシやシカの習性等を観察するため、獣害監視カメラの設置を行った。
- 管内の多くの方に、鳥獣害対策の正確な知識を習得していただくためのセミナー(75名)の開催。

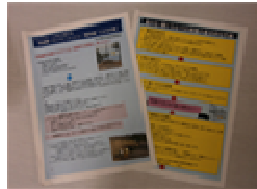
成果

平成28年度実績 (H27被害調査結果) : 被害面積 : 178ha、被害金額 : 1.27億円

- 市町村担当者等に対して、地域ぐるみで取り組み、獣害対策の進め方やその重要性、具体的な対策等について説明し、正確な知識の啓発を行うことができた。
- パンフレット「イノシシ・シカにおける防護柵(ワイヤーメッシュ・電気柵)による対策」「箱わな・囲いわなでの捕獲の基本的な手順」を作成し、講習会の際配布し、鳥獣害対策の正しい知識の啓発を図った。
- 地域での講習や現地調査・指導等を実施し、知識を高めてもらうことができた。
- 五條吉野農業推進協議会と協賛し、セミナーを開催し、多くの方に、獣害対策の正確な知識を習得していただいたとともに、先進地域のその取り組みや考え方を学んでいただくことができた。
- 地域住民に対して、獣の生態や特徴、獣害対策の進め方、実際の対策について講習し、獣害対策の意識を高めることができた。
- 野生獣を監視カメラで観察し、その習性を再認識することができた。



鳥獣害対策講習会



作成したパンフレット



設置した監視カメラ



現地調査



五條吉野地域「農作物等野生鳥獣被害対策セミナー」 — ①7の1 —

南部農林振興事務所 農業普及課
担当：農産物ブランド推進系 多田・廣野
総合的鳥獣害対策推進事業

普及活動のポイント

- 鳥獣害対策については、管内のすべての市町村の課題となっており、今後とも継続した指導は必要。
- 農業水産振興課の協力も得てパンフレットを作成したことで、管内市町村等でも活用していただき、より多くの人に正確な知識の啓発を効率的に進めていくことで、今後の鳥獣被害の低減につなげた。

対象の変化

- 獣害対策は、地域ぐるみで取り組んでいくことが重要であることを認識した。
- 鳥獣害対策セミナーや講習会等を継続することで正確な知識を習得した人が増えてきた。

対象者からのコメント

- 講習会やセミナーをとおして、地域ぐるみの獣害対策体制の必要性を再認識したとともに、現体制を改善していく必要があると感じた。
- イノシシ・シカの生態やその対策のポイントについてよく理解できた。
- 具体的な事例に基づいた話で非常に参考になることが多かった。
- 補助事業にすぐ飛びつくのではなく、十分地域で考え取り組むことが必要であると感じた。

これからの活動ビジョン

- 今後とも正確な知識を多くの方々に習得していただくよう講習会や現地調査を実施し、関係機関と連携し継続的した取り組みを行う必要がある。
- 集落点検活動に活用できるよう、新たにパンフレットを作成し、管内市町村等でも活用していただき、より多くの人に正確な知識の啓発を効率的に進めていき、今後の鳥獣被害の低減につなげていきたい。

活動体制

